

【授業科目】総合検査学演習 Comprehensive Inspection Seminar

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦、千原 猛、星野 真理 森 啓至、森本誠、小菅 優子 杉浦 諭、山口 央輝、榎本 喜彦 大島 茂、澤田 浩秀	4年次 後期	必修	2	60	演習	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>本科目では臨床検査に関する習得内容の総まとめをする。専門科目は個別の講義であるため、独立して学習している。実際の医療現場では専門性も必要とされるが、臨床検査技師という立場では、分野間の横断的かつ総合的な検査データの解釈が必要とされる。基本的な測定原理・方法、操作手順、検査結果の解釈、疾患との関わりをこの科目で再確認し、検査結果から病態との関連性を解析する問題解決能力を養う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートにコメントをつけて返却する。</p>						
実務経験に関する 授業内容	臨床検査士技師の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師として必要な臨床検査の知識全般について、現場業務項目に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。						
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。						
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 各領域の基礎、疾患と検査値の関係を説明できる。 ② 各領域の検査法・原理など説明できる。 ③ 各領域の検査結果から疾患を推測できる。 						
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	<p>各領域で学んだ基礎的な内容をしっかり理解し、復習しておくこと。</p> <p>第1回～30回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく（各30分）</p> <p>第1回～30回事後学習：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各30分）</p> <p>※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各60分）。</p> <p>上記例は、2単位30回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間/1回となる。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	第1～4回	臨床化学	高崎				
	第5～7回	血液検査学	鈴木				
	第8～10回	免疫検査学	星野				
	第11～13回	病理組織細胞学	小菅				
	第14～16回	微生物検査学	森				
	第17～19回	臨床検査総論	小菅				
	第20～22回	生理機能検査学	榎本				
	第23～25回	臨床病態学	山口				
	第26～27回	公衆衛生学	千原				
	第28～29回	医療工学	大島				
	第30回	検査情報管理学	森本				
評価方法 評価基準	筆記試験 100%						
教科書	各科目で使用された教科書・資料			参考書等	なし		
学生への メッセージ	臨床検査技師になるにあたり、今までに学んできたことの総まとめとする。この演習では、検査法の原理・方法から、疾患と検査データとの関係、疾患の成り立ち、症状等の内容について多分野で総合的に理解を深める科目であるためしっかり学修すること。						